

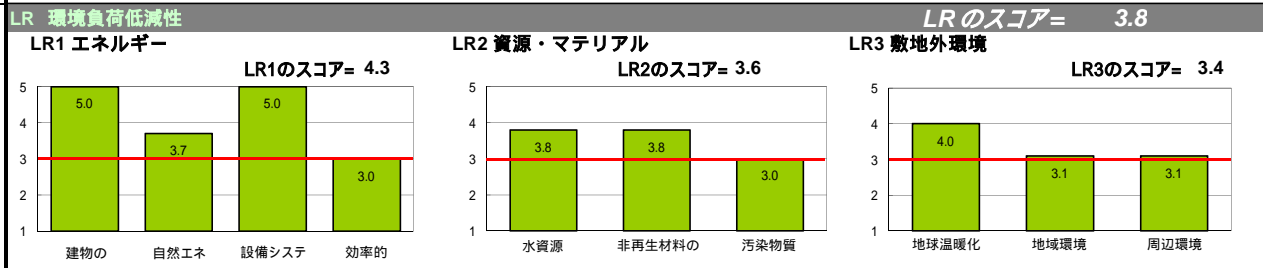
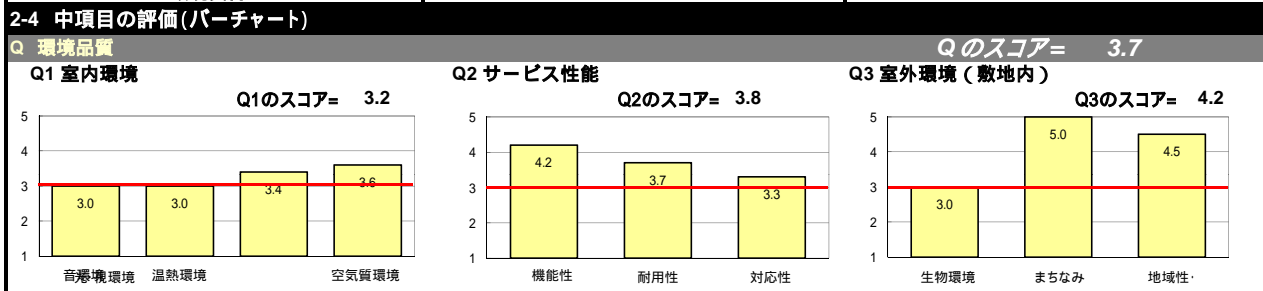
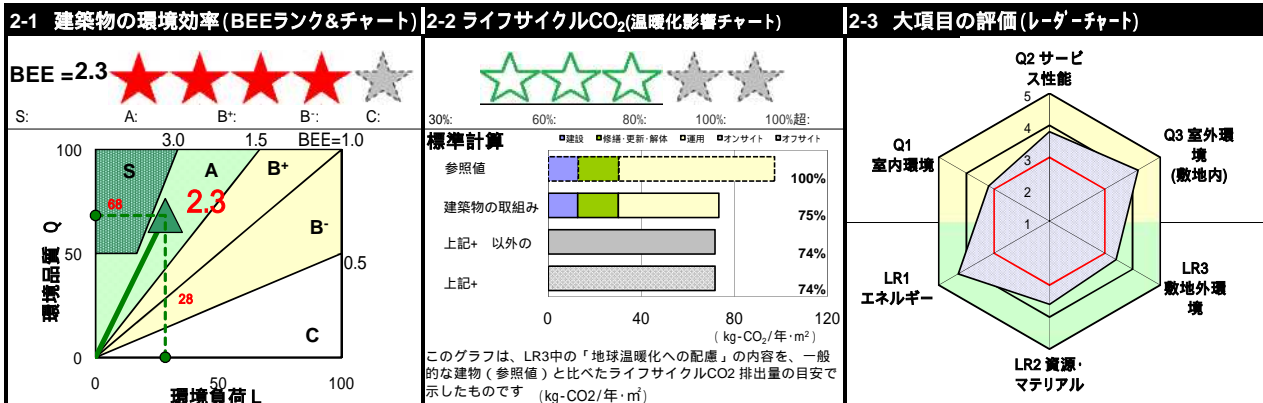
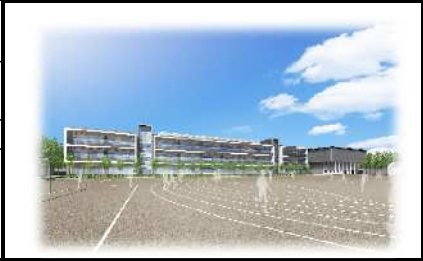
この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2014年9月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築 [簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (簡易版) 2010年追加版 (BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bei(v.1.1)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|------------|
| 建物名称 | 鎌倉市立大船中学校 | 階数 | 地上3F |
| 建設地 | 鎌倉市大船四丁目1番25号 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 第一種中高層住居専用地域 | 平均居住人員 | 635人 |
| 気候区分 | | 年間使用時間 | 2,600時間/年 |
| 建物用途 | 学校, 集会所, | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2016年3月 予定 | 評価の実施日 | 2014年1月30日 |
| 敷地面積 | 31,433 m ² | 作成者 | (株)石本建築事務所 |
| 建築面積 | 5,341 m ² | 確認日 | 2014年1月30日 |
| 延床面積 | 9,620 m ² | 確認者 | (株)石本建築事務所 |



| 3 設計上の配慮事項 | | その他 |
|---|--|---|
| 総合 敷地に校舎棟、ｽﾀｰｯ棟、部活棟と機能ごとに分棟とした計画とし、明確なゾｰﾝｸﾞとすることで、Iﾎｰﾙ-ﾀﾞを減らし、将来的な改修、更新等に配慮した計画とした。 | | ・災害時等のﾏｯﾎｰﾙﾄﾞを設置。 ・防災拠点としての機能を持ったｽﾀｰｯ棟には防災備蓄倉庫を設けている。 ・火災時に屋外ﾌﾞｰﾙの水を利用可能とした計画としている。またﾌﾞｰﾙの水は、災害時にはろ過機を利用することで、飲み水としても利用することができる計画とした。 |
| Q1 室内環境 南面側に日射遮蔽効果のあるﾊﾞﾙｺｰを設け、階段室を利用した重力自然換気を可能とした計画とした。 | Q2 サービス性能 ・重要度係数1.25としている。 ・将来的に教室数が増加した時用に多目的ｽﾎﾟｰｽ兼予備教室ｽﾎﾟｰｽを確保した。 ・校舎棟は、間仕切り変更が容易にできる純ﾌﾞｰﾙ構造を採用。 | Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内の緑地を可能な限り確保し、夏の卓越風がけやｷｰﾄﾞを抜けていく計画とした。 |
| LR1 エネルギー ・LED照明を多用し、維持管理の低減に配慮した計画とした。 ・太陽光発電設備、節水機器、雨水利用(便所洗浄、植栽散水)、ﾘﾌﾗｲﾄﾞ材等の採用。 | LR2 資源・マテリアル 節水機器、雨水利用(便所洗浄、植栽散水)、ﾘﾌﾗｲﾄﾞ材等の採用。 | LR3 敷地外環境 ・校庭の上に砂塵の発生しづらい舗装材(ｸﾞﾗﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞ)を採用した計画とした。 ・校庭周囲には防砂ﾈｯﾄを設置した計画とした。 ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾗｰによる、砂塵の発生を抑制した計画とした。 |

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のことで評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい